



おかげさまで200号

一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.200 2015.11月号

特別寄稿

育種と私

育種のきっかけ

現在、花の育種（品種改良）の仕事をさせてもらっているのですが、そもそも

のきっかけは、入社当時、シャクナゲ輸入苗の栽培担当をしたのがきっかけで

す。その後も数年間シャクナゲの生産に携わったのですが、当時は海外で育種された品種ばかりで、日本の気候にあわず、

栽培は苦労の連続でした。今では想像もつかない話ですが、毎年夏になると、枯れたシャクナゲを2トンダンプで何杯も捨てたものです。

どんなに素晴らしい花を咲かせる品種でも、育てることができなくては意味がありません。何度かアメリカにも行かせて

いたいのですが、シアトルの住宅地で当たり前のように見事な花を咲かせているシャクナゲを見るたびに、日本との気候の違いを痛感しました。結局、日本で育つシャクナゲは日本で育成するしかないと想い、とにかく交配して種をまこうと決意したのが、1981年。以来、毎年のように種を蒔き、シャクナゲを育ててきました。

それでも当初は枯れるものが多かったのですが、とにかく生き残った株から種を取り、それを蒔くということを繰り返



タイヤンビカスへのこだわり

した結果、見違えるような丈夫なシャクナゲを多数生み出すことができました。

モミジアオイとの交配から生まれた新しい宿根草です。もともと、ハイビスカスやムクゲ等、アオイ科の植物が大好きで、

アメリカカフヨウにも興味を持っていたのですが、いまいちアメリカカフヨウには好きになれない所がありました。それは花弁の質感と花の色でした。花が大きく派手はあるのですが、花弁に滑らかさがなく、安っぽい造花のような印象を受けました。花色についても、特に濃い赤色については、濁ったような色で、まるで美しさを感じませんでした。そんな時、偶然見つけたアメリカカフヨウとモミジアオイとの種間雑種は、花は小さく形も良くないものの、なめらかな花弁に透明感のある輝くような赤色で、今まで見たことの無いような素晴らしい花色でした。そこで、「この素晴らしい花色と美しい花弁の質感を移すべく、再度アメリカカ

クリスマスローズへの想い

フヨウに交配してみたのです。そして生まれたのがタイヤンビカス第一号のブライドレッドで、まさにその美しい花色は今までのアメリカカフヨウにはなかつたものでした。

現在も交配を続け、新しい品種を目指していますが、滑らかな花弁の質感と本当に美しい花色をテーマとして頑張っています。また近いうちに新品種をいくつかお届けできるので、楽しみにお待ちください。